

調査等事項報告（団体名：産業厚生常任委員会）

視察先	兵庫県朝来市
視察日時	平成 30 年 5 月 10 日（木）14 時半～16 時まで
視察項目	移住支援の取り組みについて、空家等対策事業について
視察者	川田律子、菊池貞好、長南 誠、茨木久彌、森 一弘、 矢萩浩次、犬飼 司
内 容	<p>1 朝来市の人口ビジョン：朝来市創生総合戦略 2040 年に合計特殊出生率 2.07 人、毎年 50 人の社会増を目指し、今世紀中ごろの人口目標を 25,000 人と設定する。</p> <p>2 基本理念・戦略 シビックプライドの醸成が市を担い貢献する「ひと」をつくり、その「ひと」が魅力ある多様な「しごと」をつくり、その「ひと」と「しごと」が希望を持ち心豊かな暮らしを営む「まち」をつくり、その「まち」が「ひと」を呼び込む好循環をもたらす。</p> <p>3 移住・定住施策の総合的な展開 情報発信から移住フェア・イベントの開催、体験と受け入れの体制づくり、地域と「ひと」との繋がり・縁づくりを行っている。あさご暮らし体験会は年 3 回開催し、体験住宅は家賃 3 万円で最長 1 年の「まち」や「ひと」の体験が可能である。 また、体験受け入れには空き家バンク制度を活用し、空き家の適切な管理と有効活用促進条例を制定し、朝来市空き家対策計画を策定、空き家発生防止、空き家の抱える課題への対応、適切な管理と有効活用促進等、空き家対策の総合的・計画的な推進に取り組んでいる。バンクへの登録は 318 件、成約は 45 件の実績がある。</p> <p>4 移住支援 住宅取得補助・家賃補助、多世代同居支援、リフォーム補助、引っ越し補助、若者遠距離通勤支援、子育て支援等の支援を実施している。 特に移住起業者支援、「産学公民金＋農畜林」連携ネットワークを活用し「あさご元気産業創生センター」として起業の創出と支援がなされている。 また、しごと探しのネットワーク「ジョブサポあさご」はハローワークとの連携相互情報共有されており、これは全国初である。</p>

視察先	兵庫県小野市
視察日時	平成 30 年 5 月 11 日（金）10 時～11 時まで
視察項目	福祉医療費に関する取り組みについて
内 容	<p>1 福祉医療費に関する先駆的な取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児医療（0 歳～18 歳まで）の助成医療費について ・老人医療（65 歳～69 歳までの低所得者の助成医療費について ・「おの検定」について <p>2 特筆すべき小野市の行政経営</p> <p>(1) 市民を顧客と捉え「市役所は市内最大のサービス産業の拠点」と捉えた顧客満足度志向</p> <p>(2) 「何をやっているのか」でなく「何をもたらしたか」の成果主義</p> <p>(3) 「小野らしさ」のナンバーワンではないオンリーワン</p> <p>(4) 言われる前にやる「後手から先手管理」</p> <p>この四本柱の行政経営戦略のもと、より高度でより高品質なサービスをいかに低コストで提供するかを追及する市政運営の基本的理念とする、小野市の福祉医療制度、高校 3 年生までの医療費完全無料化について伺いました。</p> <p>3 「子育てを考えたら小野市」子育て支援について</p> <p>県内屈指の子育て支援「住むならやっぱり小野」「子育てを考えたら小野市」をキャッチフレーズに、子育て支援の充実が人口の微減を可能にしている。</p> <p>就学前 4, 5 歳児の幼児教育の所得制限なしでの無料化や、高校 3 年生までの医療費を所得制限なしで無償化などの子育て支援事業を展開している。財源は 1/4 が県の助成で他は一般財源である。市長の経営感覚、バランスのとれた財政運営と健全な財政の維持が、この医療制度を実現できる要因であった。</p> <p>今後の課題は「コンビニ受診」の増加が懸念され今後の検証が必要だが、市民からはこの制度への賛同の声が多く今後も助成事業を継続する。</p>
視察先	兵庫県多可町
視察日時	平成 30 年 5 月 11 日（金）13 時 30 分～15 時 45 分まで
視察項目	健康保養地としての取り組みについて
内 容	<p>1 健康保養地としての取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気候療法・地形療法」健康ウォーキングの取り組みについて ・「多可オープンガーデン」概要について ・「たかのたから」について

2 健康保養地事業 ドイツ発祥のクアオルト

地方創生の観点からの健康と産業への取り組みの中で、ヘルスツーリズムとしてウォーキングに組み込み、気候性地形療法コースの開発のほか、健康を中心とした視点での地域資源の見直しも行う。

他にも地元食材の研究活用、ラベンダーパークのアロマオイル・ハーブの研究、ヘルシー弁当の開発など、地域資源の見直しと健康とを組み合わせ取り組んでいる。

気候性地形療法は、平地ではなく山の中のアップダウンを歩くことにより体に負荷をかける。負荷をかけたときの体の状態として、心拍数が「160－年齢」、体の表面温度が「歩く前－2℃」という2つの目安が有る。これは皮膚の毛細血管が収縮し体表面の血液が筋肉に移動し、結果として酸素と栄養が筋肉に行き届き筋力の増強になる。

ウォーキングの効果が医学的に証明されるようモニター調査を実施した結果、血圧が正常値になることや、ストレスの解消などの健康増進に繋がる事業となっている。

ウォーキングは毎週実施し、参加者は数名から多い時は40名程となっている。

3 多可オープンガーデンについて

ガーデニングの愛好家たちが自庭を公開しているオープンガーデンで、年間の総来客数は12,000人を数える。庭の管理に町の助成は無く、庭主が個人で管理している。

町の職員の案内で一軒のオープンガーデンを見学し、想像以上に広くまた管理も大変行き届いており、とても素晴らしい庭に全員から感嘆の声が上がった。

4 たかのたからについて

「ふるさと納税」返礼品に、「多可町特産品認証制度」は、特産品のブランド化をはかるため、町生まれの地場産品を認証する制度である。

現在143品が認証を受けており、前年度納税額は1億円となっている。